



能勢高校ニュースレター

第65号 H.25. 2月発行

マレーシア修学旅行

アスンタ高校との学校交流を楽しみました!!!

去る1月28日から2月1日まで2年次生のマレーシア修学旅行を実施しました。活動3日目の1月26日には、第7回目となる現地アスンタ高校との学校交流を行いました。アスンタ高校は、英語をコミュニケーションツールとし、マレー系、中国系、インド系の生徒がともに学び、多文化共生や異文化理解を尊重している高校です。

本校生たちは、「総合的な学習の時間」及び*春の校外学習の機会を利用し、マレーシアについての学習を積み重ねるとともに、アスンタ高生と半年以上かけてインターネットを利用したメール交換や写真交換などを行い、1対1の交流を続けてきました。

この日は、朝8時30分に学校に到着。各々の交流相手を確認し、交流会が始まりました。本校生たちは、全員で練習を積み重ねてきた合唱に加え、空手道の演武、人形浄瑠璃の披露、学校紹介のプレゼンなどを行いました。アスンタ高生たちも、民族舞踊や歌、伝統的な結婚式のパフォーマンスを披露するなど、熱烈に歓迎してくれました。交流ノートを交換し、マレーシア料理を一緒に食べた後、午後からは、アスンタ高生のリードでクアラルンプール市内を散策しました。夕食のパーティーは、両校生たちが企画し、歌やダンスなどのパフォーマンスを競うなど、全員が心から打ち解け、大きな感動を呼ぶものとなり、まる一日かけた交流の終わりには、多くの生徒が涙を流し、別れを惜しんでいました。パーティーは夜の8時30分に終了し、12時間に及ぶ交流となりました。また、来年6月には、アスンタ高生が本校を訪問することになりました。

また、今回の修学旅行では、世界遺産マラッカ訪問、熱帯雨林トレッキング、イスラム教・ヒンズー教・仏教の代表的な寺院の見学なども行いました。本校生たちは、この旅行を通じ、外国の友人を作ることができ、多民族国家であるマレーシアの文化に直接触れることができました。また、環境問題を考え、日本の文化を見つめなおすとともに、英語力を身に付けることの重要性を肌で感じ取ることができました。

*春の校外学習では、JICA 関西（旧 JICA 兵庫）を訪問しています。マレーシア修学旅行の事前学習としてのこの活動内容は、JICA 関西のホームページに掲載されていますので、ご覧下さい。

JICA 関西HP→開発教育支援→JICA 関西訪問プログラム→過去の実施例「大阪府立能勢高等学校（2012年4月25日）」

以下は修学旅行の様子です。他にも活動の写真をHPにアップしています。是非アクセスしてみてください。



↑私たちが泊まったイスタナホテル
5つ星です



↑イスラム教寺院では女子は
長袖でスカーフが必要です



↑森林研究所でキャノピーウ
オーク 吊り橋を渡りました



↑バツ洞窟の見学です。
272段の石段を登りました



↑アスンタ高校では正門から
食堂まで大歓迎を受けました



↑浄るり人形の
パフォーマンスを行いました



←生徒代表挨拶と留学生のデイル
による通訳の様子



空手演武の様子→



本校生全員で、2部合唱・キロロ
「未来へ」を披露しました。



夕食のパーティーの最後は、両校の全生徒・教員で、
キロロの「未来へ」を歌いました。

さようなら！ デイル

4月からほぼ1年間本校で過ごしたディールが2月初めに帰国しました。彼女は能勢高で様々な経験をするとともに、町内すべての小中学校を訪問して、児童生徒たちにスリランカについて紹介し、交流活動をしてくれました。

帰国直前には、1月12日（土）に北野高校で行われた、「高校留学生日本語による体験発表会」に出場し、府立高校に通う13名の留学生によるレベルの高い発表の中、日本語ボランティアの方々の熱心な指導の成果もあり、みごとに優秀賞3名の1人に選ばれました。

また、2年生のマレーシア修学旅行にも参加し、現地のアスンタ高校との交流では、能勢高校で経験を積んだ「空手」の演武を披露したり、生徒代表挨拶等の通訳をしたりして、大活躍でした。

彼女が能勢高校で過ごしてくれたことは、私たち能勢高校生徒・教員にとっても、異文化に触れ、理解し、交流を重ねる事のできる貴重な日々でありました。

能勢に来た時は、10ヶ月は長いと思っていたし、帰りたいと思った時もありました。でも、今は全然帰りたくありません。自分がこんなに寂しい気持ちになるなんて思いませんでした。私にとってこの10ヶ月は本当に楽しい時でした。ありがとうございました。（ディール）



日本語でスピーチをするディール

人権作文コンクール 最優秀賞、優秀賞受賞！！

人権に関する作文のコンクールは、生徒一人ひとりに人権問題を自らの課題として考えさせることにより、人権尊重の教育の推進を図ることを目的に、大阪府下の高校生を対象にして毎年行われているものです。今年は総数4055作品の応募があり、そのうち93作品が大阪府教育委員会に提出されました。審査の結果、最優秀賞6作品、優秀賞40作品が選ばれ、本校3年生の大藪未来さんによる「**自らの経験から学んだこと、伝えたいこと**」と題した作文が最優秀賞に、加堂汐梨さんの作文「**私を支えてくれた人々**」が優秀賞に輝きました。

また、第9回人権文化発表交流会が2月2日、大阪府教育センター（大ホール・展示ホール）で開催され、大藪さん、加堂さんが表彰式に参加しました。授賞式会場で最優秀賞を受賞した大藪さんは作品の朗読を行い、多くの人々に感動を与えてくれました。加堂さんも壇上で表彰を受けました。



発表をする大藪さん



表彰された2人



表彰を受ける加堂さん

ロンドンオリンピック卓球女子ジャパン 村上監督講演会

1月10日（木）能勢高校に体育館にて、本校全生徒およびPTA希望者を対象に、2012年のロンドンオリンピック卓球競技女子団体に男女を通じて日本卓球初のオリンピックメダルとなる銀メダルを日本にもたらしたことで、今や時の人となっておられる村上恭和監督の講演会を行いました。

DVDで女子日本チームの活躍ぶりを振り返った後に、「メダル獲得の要因」～戦略なくして勝利はなし～という演題で約1時間、「元気の出る話」を熱く語っていただきました。

全日本女子卓球チーム監督として、ロンドンオリンピックにてメダルを獲得するに至るまでの道のりを、ご自身の歩んでこられた人生の様々な場面でのエピソードを交えながら、熱心に語っていただきました。生徒たちは監督の話に真剣に聞き入り、質疑応答の際には「筋力トレーニング」や「村上監督が卓球を始めたきっかけ」などについて、熱心に質問をしました。

「人生は、自分自身の考え次第。人間万事塞翁が馬。高校生諸君、前向きな気持ちで頑張ってください。」とのメッセージを直接語りかけていただいたことで、元気をいただけた講演会となりました。



本校体育館で講演をされる村上恭和氏

人権講演会 車椅子バスケット女子ジャパン監督 高橋氏講演会

昨年12月13日（木）に本校体育館において、NPO法人「アダプテッドスポーツサポートセンター」理事長の高橋明氏をお招きし、人権講演会を行いました。高橋氏は1974年に日本初の障がい者スポーツセンターである大阪市長居障がい者スポーツに入職され、2000年のシドニーパラリンピックでは、車いすバスケットボールの日本選手団総監督を務められました。現在は大阪府立大学等で非常勤講師を勤められながら講演活動を全国で行われています。障がい者スポーツを「同じスポーツ」として確立するためには「見せる」ことが大事と感じられ、同NPOでは、主な活動の一つに府内外の学校での車いすバスケットボールの体験学習も行っています。

当日の講演会では障がいのある人たちの日常や、障がいのある人と障がいのない人が共に暮らす社会の在り方、車いすバスケットボールの普及のために行われた様々な工夫や成果を情熱的に語られました。

また、「失った機能を数えるな、残った機能を最大限に生かせ」というパラリンピックの創始者グッドマン氏が残した言葉を用い、「障がいがあるからできないではなく、障がいがあるのにこんなこともできるという発想の転換が大切」と力説されました。



本校体育館で講演をされる高橋明氏